【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】令和3年9月16日(2021.9.16)

【公表番号】特表2020-535662(P2020-535662A)
【公表日】令和2年12月3日(2020.12.3)
【年通号数】公開・登録公報2020-049
【出願番号】特願2020-518034(P2020-518034)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｌ　23/373　(2006.01)
Ｃ０１Ｂ　32/225　(2017.01)
Ｈ０５Ｋ　7/20　(2006.01)
Ｈ０１Ｍ　10/613　(2014.01)
Ｈ０１Ｍ　10/623　(2014.01)
Ｈ０１Ｍ　10/625　(2014.01)
Ｈ０１Ｍ　10/653　(2014.01)
Ｈ０１Ｍ　50/20　(2021.01)
Ｈ０１Ｍ　50/10　(2021.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｌ　23/36　Ｍ
Ｃ０１Ｂ　32/225
Ｈ０５Ｋ　7/20　Ｆ
Ｈ０１Ｍ　10/613
Ｈ０１Ｍ　10/623
Ｈ０１Ｍ　10/625
Ｈ０１Ｍ　10/653
Ｈ０１Ｍ　2/10　Ｓ
Ｈ０１Ｍ　2/02　Ａ
Ｈ０１Ｍ　2/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和3年8月3日(2021.8.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
下の表１及び表２は、合成グラファイト粉末の粒径に応じて様々な物理的性質をまとめたものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５０】
粒径に応じて合成グラファイト粉末の選別が篩を用いて実施され得る。例えば、格子篩が使用され得る。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００５７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５７】
しかしながら、第１の酸化剤が単独で使用される場合、硫酸のSO_3等の水分子に強く結合したイオンが存在し得るため、インターカレーションは困難になり得る。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６８】
グラファイトの一般的な結晶構造では、図６に示すように、６つの炭素からなる環（又はリング；ring）が、ｃ軸値（層間隔の２倍）が約６．６５７オングストロームである層を形成するために接続され、炭素間の結合長は約１．４２オングストロームである。さらに、炭素の単位格子は４つの炭素原子を含み、格子定数は約２．４５６オングストロームである。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２１】
実施例１：熱伝導性薄膜の作製
１．１．合成グラファイト粉末の選定
球状の合成グラファイト粉末（サングラフ株式会社）を、最初に、篩を用いて粒径５０～５００μｍを有する粉末に選定し、次に、粒径１００～３００μｍの粒径を有する粉末に選定した。最終的に選定された合成グラファイト粉末の平均粒径は、１００～２００μｍであった。